

## IV 高等部

新学習指導要領に対応した「社会で生きる力」を育てるための授業改善

### 1 研究の趣旨

新学習指導要領では、特別支援学校高等部段階においては「心身の全面にわたる発達が急激に進む時期」であるとし、「自らの在り方生き方を考えさせ、将来の進路を選択する能力や態度を育成すること」、「社会についての認識を深め、興味・関心等に応じ将来の学問や職業の専門分野の基礎・基本の学習によって、個性の一層の伸長と自立を図ることが求められる」としている。生徒一人一人の障害の状態や特性、心身の発達の段階を踏まえつつ、高等部卒業後に社会で生きていくための力について、どのように捉え、どのように育てていくかを検討していくことが必要となっている。

これまでに取り組んできたキャリア教育についての研究では、社会参加に必要とされる能力の向上を目指した授業の実践を行ってきた。その中では、社会との接続という点から、産業現場等における実習で実習先からいただく評価表を基に課題の設定をした。しかし、求められる力や課題について、年間指導計画における学習内容だけでは不足のある部分があることなども分かった。

本研究では、学習指導要領の改訂を受けて、以下の二つを目標として研究を行った。一つ目は、新学習指導要領の内容を基に、これまでの年間指導計画の目標や学習内容についての見直しを行うことである。その際には、前述の研究の中で得られた課題についても取り入れながら作成することとした。二つ目は、見直した年間指導計画を基に研究授業、授業研究会を行い、出された課題について改善策を考えながら年間指導計画の再考を行い、授業改善を進めることである。授業改善にあたっては、主体的な学び、対話的な学び、深い学びについて、指導の中のどのような場面で、どのように取り入れることができるかを検討する。以上の内容で、新学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成と授業改善を通して、生徒が「社会で生きる力」を育てることを目指して本研究を進めることとした。

### 2 研究計画

年度	実施月	内容	
		新学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成	年間指導計画及び単元指導計画の見直しからの授業改善
令和2年度	5月～7月	生活単元学習、保健体育、職業、LHR、総合、自立活動の見直し	
	9月～12月		保健体育、生活単元学習の指導案検討会、研究授業、授業研究会
	1月、2月	令和2年度のまとめ、中間報告	
令和3年度	5月～10月	国語、数学、音楽、美術、家庭の見直し、様式の改善	
	10月～12月	作業学習、福祉、情報、の見直し	職業、作業学習の指導案検討会、研究授業、授業研究会
	11月～12月	本研究のまとめ	

### 3 実践

#### (1) 新学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成

##### ①令和2年度の取り組み

	R1 までの年間指導計画	新学習指導要領に基づいた年間指導計画
生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する単元や内容について、学年ごとに何を学ばせるか、何ができるようになるか、何ができるようになるか、何ができるようになるかが明確でなく系統立っていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業に示された「職業生活」に基づき、実施する内容を整理すると共に、各教科との関連を踏まえた内容と目標を検討した。またキャリア発達能力の目標を基に、進路に関する単元について、関連する項目をまとめた。(表1)</li> <li>実習に関する項目の中で、実習の心構えの一つとして、休憩時間の過ごし方について入れた。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元名が、「陸上競技 マラソン」となっていた。また目標については、最後まで走るなど達成感が中心であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元名を「陸上競技 長距離走」と変更し、ペースを一定にして走ることを目標としてペース配分を身に付けるための学習内容を整理した。</li> </ul>
職業	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな題材や行事名が単元・題材名となっていたため、自立と社会参加に向けた学習が断片的になってしまう場合があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改訂の基本的な考え方に、卒業後の自立と社会参加に向けた充実とあるため、単元・題材名を「働くこと」「働くために」「社会人になる」を主にし、学習内容を整理した。またキャリア発達能力の目標を基に、関連する項目をまとめた。(表2)</li> <li>実習に関する項目の中で、実習の心構えの一つとして、休憩時間の過ごし方について入れた。</li> </ul>
総合的な探究の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部と指導計画が重複しているところがあった。また、高等部でも1~3年と学年が上がるところで系統だった計画になっていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題として、SDGs(持続可能な開発目標)を大きなテーマとして、17の目標から学年に合わせて課題を設定した。</li> </ul>
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の区分や項目についての記入がされていなかった。また目標や内容、留意点について、自立活動の内容に応じた文言でなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区分、項目の記入を行った。また新たな項目として「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」が加えられたことを受け、徒歩学習の目標の見直しを行った。</li> </ul>

表1 (生活単元学習)

	1年	2年	3年
実習	校内実習にむけて ・実習日誌 ・実習の心構え ・実習激励会、実習報告会	現場実習にむけて ・産業現場における実習 ・実習日誌 ・実習の心構え、振り返り ・実習激励会、実習報告会	現場実習にむけて ・実習日誌 ・実習の心構え ・実習激励会、実習報告会
キャリア目標	・TPOに応じた言動 ・将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組 ・職業生活に必要な習慣形成	・将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組 ・産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価 ・必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力	・将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組 ・産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価

表2 (職業)

	1年	2年	3年
自分のこと	・自分の家 ・家庭での仕事や手伝い ・自分のからだ ・自分の夢		・自分のスキルと特性、これからの課題と具体的な改善方法 ・身長と体重 ・平熱、睡眠時間 など ・将来設計に結びつく進路計画 ・将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組
働くこと	・いろいろな仕事 ・先輩たちの仕事 ・働く人たち ・職場見学		
キャリア目標	・働く生活を中心とした新しい生活への期待		

自分について	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と家族</li> <li>自分の家、家庭での手伝い</li> <li>自分のPR</li> <li>自分のからだ</li> </ul>		
	キャリア目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団（チーム）の一員としての役割遂行</li> <li>必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力</li> </ul>		
働くこと・働くために	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験</li> <li>必要な態度、ルール、マナー</li> <li>職場見学</li> <li>仕事の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験</li> <li>必要なマナー、ルール</li> <li>心構え、振り返り</li> <li>体験</li> </ul>	
	キャリア目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用</li> <li>働く生活を中心とした新しい生活への期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用</li> <li>職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割の実行</li> </ul>	
学習内容	働くことについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くこと（いろいろな仕事、先輩の仕事）</li> <li>働くために（健康管理、清潔、身だしなみ、人との関わり、約束やマナー）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のマナー</li> <li>身だしなみ</li> <li>身だしなみと言葉遣い</li> <li>健康管理とマナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くために</li> <li>家庭について（卒業後の生活、余暇活動）</li> <li>社会について（職場の場所や移動、仕事内容について）</li> <li>卒業に向けて（進路支援会議、移行支援会議）</li> </ul>
	キャリア目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重</li> <li>職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用</li> <li>将来設計に結びつく進路計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重</li> <li>必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力</li> <li>職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用</li> </ul>	
進路に向けて	学習内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の仕組みと進路</li> <li>働くこと（いろいろな仕事、先輩の仕事）</li> <li>働くために（健康管理、清潔、身だしなみ、人との関わり、約束やマナー）</li> <li>さまざまな職場を知ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人になるために</li> <li>社会でのマナー（人との関わり、身だしなみや言葉遣い、情報機器の扱い方）</li> <li>健康管理、金銭管理</li> <li>きまりや制度</li> </ul>
	キャリア目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>職業生活に必要な習性形成</li> <li>職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用</li> <li>働く生活を中心とした新しい生活への期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重</li> <li>TPOに応じた言動</li> <li>社会の様々な制度やサービスに関する理解と実生活での利用</li> </ul>

働くため	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と関わるときのルール</li> <li>挨拶と返事、言葉遣い、態度</li> <li>トラブルの対応</li> <li>健康管理</li> <li>清潔、身だしなみ</li> <li>マナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設でのマナー</li> <li>場面に応じたマナー</li> <li>職場でのマナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場に応じた挨拶、服装</li> <li>入室、退出の仕方</li> <li>電話の使い方やマナー</li> <li>欠席、遅刻の連絡</li> <li>メモの利用</li> <li>社会人としての身だしなみ</li> <li>人との関わり、男女交際</li> </ul>
	キャリア目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TPOに応じた言動</li> <li>職業生活に必要な習性形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TPOに応じた言動</li> <li>必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重</li> <li>職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割</li> </ul>
社会人になる	学習内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>労働と報酬の関係</li> <li>様々な生活スタイル</li> <li>銀行の役割、ATMの使い方</li> <li>給料明細の見方</li> <li>卒業後の健康管理</li> <li>余暇の過ごし方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働と報酬の関係</li> <li>様々な生活スタイル</li> <li>履歴書、グループホーム</li> <li>選挙権、投票の仕方</li> <li>住民票などの手続き</li> <li>税金や年金</li> <li>卒業後の健康管理</li> <li>余暇の過ごし方</li> </ul>
	キャリア目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>労働と報酬の関係と計画的な消費</li> <li>職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の様々な制度やサービスの理解と実生活での利用</li> <li>職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用</li> </ul>
進路を考える	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路を決めるには</li> <li>進路先を選ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の就きたい職業</li> <li>仕事に就くための現在の自分の課題</li> </ul>	
	キャリア目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業生活、社会生活に必要な事柄の情報収集と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組</li> </ul>	
実習	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内実習にむけて</li> <li>職場体験</li> <li>校外作業学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業現場等における実習</li> <li>職場体験</li> <li>就業体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業現場等における実習</li> </ul>
	キャリア目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価</li> <li>問題解決のための選択肢の活用</li> </ul>	

## ②令和3年度の取り組み

	R2 までの年間指導計画	新学習指導要領に基づいた年間指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>年計の見直しから、学年や課程に応じて内容の整理をするとともに、系統性をもたせる必要があることが分かった。学習内容について、まだ新学習指導要領の目標や内容を取り入れられない部分があるため、時数を含めた更なる見直しが必要となった。</li> <li>「対話的な学び」をどう取り入れていくかについて検討を行った。自己の考えを広げ深めるといった視点の基、学習内容の見直しを行ったが、「深い学び」については、具体的な取り組みを挙げたり、授業に取り入れたりすることは難しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導要領に記載されている三つの柱に沿って目標を設定した。高等部は、2段階に分かれているので、課程Ⅰは2段階の目標、課程Ⅱは1段階の目標とした。「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「読むこと」の単元に分け、学年ごとに系統立てた指導内容とした。また、日常生活で、実際に必要となる学習内容の優先順位を考慮するとともに、3年間の系統的な学習の中で定着を図る。</li> </ul>

<p>数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課程Ⅰ、課程Ⅱともに数学の領域「A 数と計算」「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」ごとに学習内容が整理されていないため、各学年での目標、学習内容に系統性がなく、重複している内容が多かった。</li> <li>・新学習指導要領で数学の領域「実測」から「変化と関係」に変更になっているが、目標、学習内容が変更されていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「A 数と計算」「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」ごとに学習内容と目標を整理した。</li> <li>・課程Ⅰの教科書を基に学習内容を吟味し、課程Ⅰ、課程Ⅱ、学年における系統性をもたせた学習内容、目標を設定した。</li> <li>・「数と計算」については、「四則計算」の単元を設定して継続した学習ができるようにした。</li> <li>・日常生活に生かせるような数学的な活動を学習内容として取り入れた。</li> </ul>
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 学年、課程別に分かれた学習活動について、歌唱の時期や器楽の時期が統一されておらず、主指導者として授業を行う上でもやりづらさがあった。</li> <li>・従来の年間指導計画に記載されている目標について、課程Ⅰ・課程Ⅱともに同じ内容となっていたため、目標の見直しの必要性を感じた。単元、題材に応じた教科書の使用ができていない部分が多く、活用できていないことがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A 表現（歌唱、器楽、創作、身体表現）、B 鑑賞に基づいた各学習内容を、生徒の実態や本校の楽器の状況に応じて計画を立てた。令和4年度から単元指導計画を用いての指導になるため、次年度1年生の単元指導計画については、課程Ⅰ・課程Ⅱの目標の見直しを行った。2、3年生の単元指導計画についても課程別の目標を検討していきたい。また、教科書に掲載のある題材を取り入れることで、3年間を通して一貫した指導ができるように組み立てた。</li> </ul>
<p>美術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各課程や学年ごとの系統性が図られておらず、単元の内容や目標がばらばらであった。単元として「鑑賞」が設定されておらず、新学習指導要領の内容に適さない計画があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの系統性を図ることに重点を置いた。例えば、1年紙版画、2年木版画、3年銅板細工のように系統性をもたせながら難易度を高めるように考えている。</li> <li>・また、課程Ⅱは、1か月で1単元を原則に計画を立て、実習などで授業時間が取れないときは、2か月かけるなどして実施する。課程Ⅰは、3、4か月で1単元終わるような計画を作成している。</li> </ul>
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課程、学年において、衣食住に関する分野においての内容の重複や、全般的に表記のばらつきがあった。</li> <li>・目標の設定や実施時期、実施時数の計画が適当ではなく、計画的な授業の実施が難しい状況が見られた。</li> <li>・消費生活に関する分野の内容が足りていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A 家族・家庭生活、B 衣食住の生活、C 消費生活・環境の領域に整理し、実践的な活動を取り入れながら、内容や目標を見直した。</li> <li>・課程Ⅰで使用している教科書を元に、内容は3学年で割り振ると共に、目標は課程の実態に応じて段階をふまえて設定した。</li> <li>・消費者教育の推進を受け、各課程、学年で消費生活についての時間を増やした。</li> </ul>

福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技的な内容が多く、福祉に関する基礎の分野の内容が少なかった。</li> <li>・ベッドメイキングや整容の内容について、目標や指導内容が重複している部分があった。</li> <li>・指導内容に対しての目標が合っていない部分があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導項目として「社会福祉の概要」が設けられたことから、社会福祉の意義と役割やサービスの基礎についての内容を入れた。</li> <li>・「生活支援の実践」の内容を2学年で割り振り、2学年から始まる産業現場等における実習の中で比較的仕事内容として行うことが多い、〈整容〉〈移動〉〈睡眠〉を1学年時の学習内容とした。</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Word、Excel、PowerPoint を各学年で学習。基本的な操作とタイピングや文書作成についての内容が多くなっており、データの活用に関する内容が少なかった。</li> <li>・情報化社会の課題と情報モラルの分野については、各学年ともいろいろなメディアのもつ危険性についての内容が中心となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の内容を基に、新学習指導要領で示された「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「情報通信ネットワークとデータの活用」の三つの区分に整理し直し、学習内容と目標の見直しを行った。</li> <li>・情報モラルについては、情報社会で生活する中での責任やマナーについての内容を取り入れた。</li> </ul>
作業学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が三つの柱で整理されておらず、内容に偏りがあった。</li> <li>・キャリア教育の内容が含まれておらず、知識技能を身に付けることが中心となっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を三つの柱で整理した。</li> <li>・通年の項目（あいさつ、返事、報告、言葉遣い、身支度など）に、キャリア教育の視点をもって指導ができるようにするため、キャリア発達能力の目標を基に、学習内容の部分に目標とする項目を追記した。</li> <li>・休憩の取り方についての項目を取り入れ、休憩時間の過ごし方や休憩を取るタイミングなど、産業現場等における実習の評価を基にした内容を整理し、記入した。</li> </ul>

### ③まとめ ～年間指導計画の見直しから～

本研究にあたり、課程や学年を越えたグループ編成をして年間指導計画の見直しに向けた話し合いを行うことで、これまで課程や学年ごとに実施や反省をしていた中では見えなかった課題が多々あることが分かった。

高等部の年間指導計画に共通する一つ目の課題として、従来の年間指導計画では、課程や学年の系統性が図れていない部分があった。二つ目の課題としては、目標と学習内容が合っていない部分などがあった。

本研究の中では、そういった点の見直しを行いつつ、新学習指導要領の内容を取り入れて作成を進めた。高等部は目標及び内容が2段階で示されたことを受け、課程Ⅰは卒業後の自立を目指し、実際の生活に必要な生活習慣、社会性及び職業能力等の習得をねらうため2段階の目標、内容を中心に、課程Ⅱは卒業後の生活を見据えた基本的な生活習慣や社会性、職業能力等を身に付けることをねらって1段階の目標、内容を中心として作成した。それにより、課程、学年の目標、内容を系統立てるとともに、学習内容や文言を整理することができた。

(2) 年間指導計画及び単元指導計画の見直しからの授業改善の実践

授業改善に向けた取り組みについては、令和2年度は保健体育、生活単元学習、令和3年度は職業、作業学習で行った。年間指導計画の見直し、授業計画、授業実施、授業研究会、年間指導計画の改善という流れで行った実践について、以下にまとめる。

①課程Ⅱ全学年 保健体育

【R2実施内容】

教科	保健体育	単元名	長距離走・正しい走り方を身に付けるために
単元の目標	1. 腕に力を入れずにリラックスして一定のペースで走ることができる。 2. 手本を見て正しい走り方を判断することができる。 3. 陸上競技をとおして、健康の保持増進と回復に取り組み、生涯にわたって運動に親しもうとする意識を高めることができる。		
本時の目標	1. 正しい走り方について知ることができる。 2. 長距離走に意欲的に取り組むことができる。		
授業内容	長距離走において正しい走り方を知り、意欲的に取り組むことを目的に授業を行った。走り方のポイントについてパワーポイントや映像を用いて、良い例、悪い例を比較できるように示した。良い例、悪い例の二つの映像を見て、どちらが正しいか考えるよう促した。その後、正しい走り方について全体で共有する場面を設け、正しい走り方のポイントを意識しながら長距離走を行った。		
授業研究会から	全体での説明のみではなく、グループで正しい走り方について話し合ったり、実際にやってみたりすると良いという意見が多く挙がった。またTT間の連携について事前に密に連携しておく必要があったという意見も多数あった。		
改善点	生徒自身が良い点、悪い点について考える時間を設けられるようにする。本単元の時数のみでは正しい走り方について考えを深めたり、身に付けたりすることが難しいため他の長距離走に関連する単元（体づくり運動等）と合わせながら指導内容の見直しをしていく。		

【R3実施内容】

R2から改善した点	・体づくり運動の単元の中で正しい走り方について繰り返し説明し、理解を深められるようにした。また、グループ協議を取り入れ、生徒同士で考える時間を設けた。 ・事前に教員間で話し合い、教員の指導体制を確認した。	
R3実施の評価	①目標 適切・改善が必要 ②実態把握 適切・改善が必要 ③学習内容 適切・改善が必要 ④時数 適切・改善が必要 ⑤支援方法 適切・改善が必要 ・タイミング ⑥授業の流れ 適切・改善が必要 ⑦指導形態 適切・改善が必要 ⑧その他 適切・改善が必要	・体づくり運動の単元で正しい走り方について繰り返し説明することで、本単元実施時に正しい走り方についてより理解が深まり、走り方のポイントを発言する生徒が多かった。 ・グループ協議を取り入れることで、生徒同士で走り方の善し悪しを判断し、理解が深まっていた。 ・グループ別で指導することで実態に応じた支援や評価がしやすかった。
R4向けの改善点	・グループ協議を取り入れることで意見が活発になったことは良かったが、時間が足りず、出た意見を実践する時間がとれなかった。そのため、令和4年度は、話し合うポイントを絞ったり、キーワードを提示したりして、話し合いの充実を図れるようにする。	

②課程Ⅱ 2年 生活単元学習

【R2実施内容】

教科	生活単元学習	単元名	校内実習・産業現場等における実習に向けて
単元の目標	<p>1. 実習の目的やきまり、マナーを知り、目標をもって実習に参加することができる。</p> <p>2. 働くことの意義を確認し、自分の進路について考えながら実習に臨むことができる。</p> <p>3. 実習を振り返り、よかった点や改善すべき点を見つけ、次回の実習や今後の生活で生かそうとする意識を高めることができる。</p>		
本時の目標	実習をするために必要な心構えについて知り、適切な行動について考えることができる。		
授業内容	<p>実習に向けて心構えや適切な行動について考えることを目的に授業を行った。実習中、実際に起こり得る三つの場面をイラストで生徒に提示し、自分だったらどう行動するかについて選択肢の中から選び、報告の言葉について考えるよう促した。その後、発表する時間を設け、クラス全体で共有した。不足している内容は教師が補足し、メモを取るよう促した。</p>		
授業研究会から	<p>授業において教師から話を聞き、適切な答えを考えることや自分の考えをもつ、その考えを共有する活動のみでなく、ロールプレイやグループでの話し合いをする活動などが盛り込まれるとよいとの意見が多く挙がった。</p>		
改善点	<p>授業や単元の中で、生徒が考える場面、考えを深める場面や教師の授業の展開の仕方をどのように設定していくか検討が必要であると感じた。検討していく中で、本単元の時数のみでは不十分であり必要な指導を行うことが難しいため、他の進路に関連する単元と合わせながら指導内容の見直しをしていく。</p>		

【R3実施内容】

R2から改善した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて産業現場等における実習に参加する前に、進路指導部長の講話の時間を設定した。話を聞き、模擬面接を行うことで、より実践的な学びにつながった。</li> <li>・高等部全体ではなく、同学年の2クラスという小さな集団で授業を行うことで、発言しやすく、友達と相談しやすい雰囲気だった。働くことの意義を学ぶことで、産業現場等における実習に臨む姿勢がより真剣になった。</li> </ul>		
R3実施の評価	<p>①目標 (適切) ・改善が必要</p> <p>②実態把握 (適切) ・改善が必要</p> <p>③学習内容 (適切) ・改善が必要</p> <p>④時数 (適切) ・改善が必要</p> <p>⑤支援方法 (適切) ・改善が必要</p> <p>・タイミング</p> <p>⑥授業の流れ (適切) ・改善が必要</p> <p>⑦指導形態 (適切) ・改善が必要</p> <p>⑧その他 (適切) ・改善が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの先輩たちの実習の様子を動画で見ることでより身近に考えることができた。</li> <li>・時間数を18時間から24時間に増やした。</li> <li>・学校生活全般において発言する大切さを指導していることが身につき、グループでの話し合いが活発になった。</li> </ul>	
R4に向けての改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部との連携を継続できると良い。動画や写真等で、自分の姿を振り返る場面を設定し、自分を客観的にとらえ行動を修正できるように支援していく。</li> </ul>		

③課程 I 1 年 職業

R 2 から改善した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 2 年度では、単元目標が三つの柱に分かれていなかったため、令和 3 年度からは三つの柱に分けた目標を設定し、各目標に沿った学習活動を進めた。</li> <li>・令和 2 年度は「身近な職業」という単元名で 3 時間扱いであったが、令和 3 年度から教科書の単元名に沿って「働くこと」という単元名で 5 時間扱いとした。</li> </ul>
-------------	--

【R 3 実施内容】

教科	職業	単元名	働くこと
単元の目標	1. 身の周りにある職業や、先輩の就労先の仕事内容から、いろいろな職業を知ることができる。 2. 興味のある職業を見つけ、仕事の内容について調べ、発表することができる。 3. 働く人たちの生活と、今の自分の生活の違いについて主体的に考えることができる。		
本時の目標	1. 自分の興味のある職業や仕事内容について調べたことをまとめることができる。 2. 自分の発表や他の人の発表を聞くことをとおして、働くために必要な態度を身に付けることができる。		
授業内容	1. 生徒が調べた興味のある職業についてワークシートにまとめる。(前時までにタブレット端末や書籍を用いて、興味のある職業についての仕事内容やその職業に必要な力などを調べているので、その調べた内容について発表用原稿にまとめる。) 2. 自分の選んだ職業を発表したり、友達の発表についてメモしたりする。(発表原稿にまとめたことを基に、発表を行う。発表した内容をメモして、友達の興味のある職業や仕事内容を知る。)		
授業研究会から	1 年生のこの時期に興味のある職業を一つに絞ることは難しいため、いくつか範囲を広げて行うと良いのではないかという意見が上がった。また、生徒がメモを取るときに、メモに集中してしまうため、生徒の発表後に聞いて答えるようにすることで、発表した側の達成感を大切にできたのではないかという意見も挙がった。		
改善点	興味のある職業の発表の際に、一つではなく複数選択できるようにするために、単元の中で様々な業種や職業を知ることのできる学習を行っていく。		

R 3 実施の評価	①目標 適切・改善が必要 ②実態把握 適切・改善が必要 ③学習内容 適切・改善が必要 ④時数 適切・改善が必要 ⑤支援方法 適切・改善が必要 ・タイミング ⑥授業の流れ 適切・改善が必要 ⑦指導形態 適切・改善が必要 ⑧その他 適切・改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標の 3 については、社会で働く人たちの生活を教科書の例を見ながら行うことのみにとどまってしまった。その結果、生徒がイメージしにくい部分もあり、社会人の生活と今の生活の違いについて主体的に考えることが難しかった。</li> </ul>
R 4 に向けての改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の記載のある社会人の生活の例とは別に、様々な職業の生活について教材を準備するなどして、今の自分との生活の違いを理解し、主体的に考えられるようにしていくことで、目標の達成につなげていきたい。</li> </ul>	

④課程Ⅱ全学年 作業学習

R 2 から改善した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の内容を踏まえ、単元目標を三つの柱で設定した。</li> <li>・ICT機器を使って学習の見通しをもたせたり、生徒同士でやりとりする場面を設定したりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行った。</li> </ul>
-------------	--

【R3実施内容】

教科	作業学習（園芸班）	単元名	壁飾り作り
単元の目標	1. 製作工程を知り、道具の扱い方や製作の方法を守りながら丁寧に製品作りができる。 2. 良い製品を作るために工夫したり改善したりすることができる。 3. 自ら進んで取り組んだり製品が完成する達成感を味わったりすることができる。		
本時の目標	1. 花の付け方を理解し、丁寧に製作することができる。 2. 製作した壁飾りの花の付け方を確認したり、良くできた点や改善点を考えたりすることができる。		
授業内容	始めに、製品を丁寧に作ることの意義について説明し、「なぜ丁寧に作るのか」、「何のために作るのか」などについて確認した。花付けでは、花を丁寧に扱うことや花の向きや貼る場所に注意すること、接着剤の量を守ることを意識しながら行った。また、製品確認では、自分が付けた花の付け方を確認し、ワークシートに成果や改善点などを記入した。最後に、製作した壁飾りやワークシートを友達に向けて発表し、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりするなど、生徒同士が関わる場面を設定した。		
授業研究会から	活動の前に、製品を丁寧に作ることの意義を確認することで、その後の主体性につながっていくと思う。また、投影機を効果的に使用していて、生徒が関心をもって製作方法等に注目していた。発表の場面でも、他の生徒に分かりやすく製作物を提示することができ、達成感、満足感につながったと思う。生活に結びついた活動の設定という点で、どの内容をどのように生活に般化させたかという視点が不十分だった。		
改善点	単元や授業の中で主体的・対話的で深い学びに向けた内容をどのように設定していくかが課題である。生徒の興味関心を生かした動機付けや、見通しを持たせる工夫、生徒同士のやりとりなど授業に取り入れた活動もあるが、それらをより効果的にする工夫や改善が必要である。		

R 3 実施の評価	①目標 適切・改善が必要 ②実態把握 適切・改善が必要 ③学習内容 適切・改善が必要 ④時数 適切・改善が必要 ⑤支援方法 適切・改善が必要 ・タイミング ⑥授業の流れ 適切・改善が必要 ⑦指導形態 適切・改善が必要 ⑧その他 適切・改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花の正しい付け方を自分で考えて判断したり、友達の意見を聞いて考えたりするなど、生徒同士の学び合いが見られた。</li> <li>・生徒の発言や活動の様子を捉え、教師の発問の仕方や支援方法等について柔軟に対応することが大切である。</li> </ul>
R 4 に向けての改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品作りの意義について繰り返し確認し、製品作りに対して生徒が主体的に取り組めるようにしていきたい。</li> <li>・生徒同士で関わる場面をより多く設定し、学び合う環境作りをしていきたい。</li> </ul>	

⑤まとめ ～授業改善の取り組みから～

単元の目標については、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って立てたことで、本時の目標が立てやすくなり、学習内容も明確になった。(表3)

表3

	R1以前	R2以降
<b>保健</b> ・陸上競技 <b>マラソン 長距離走に</b> <b>(8)</b>	・最後まで走る達成感を味わうことができる。 ・自分の記録に挑戦する。	<b>単元目標</b> 知識・技能 ・正しい腕の振り方やペースを覚えて、走ることができる。 思考力・判断力・表現力 ・決められた時間や距離を走ることができる。 ・映像を見て、正しい走り方を判断することができる。 学びに向かう力 ・陸上競技の授業に自主的に取り組むことができる。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることができる。
<b>生活</b> <b>単元</b> <b>学習</b> 産業現場等における実習に向けての <b>(展開④)</b>	・実習の日程を知り、目的をもって落ち着いて実習に参加することができる。 ・自分の責任を自覚し、休まず、清潔に実習に臨むことができる。 ・働くことの意義を確認し、自分の進路について考えながら実習に臨むことができる。 ・実習激励会、実習報告会で、自分の目標や評価の発表をすることができる。	<b>単元目標</b> 1 実習の日程や実習先、仕事内容について知り、実習の目標を立てることができる。 2 実習にのぞむ心構えを理解し、適切な態度を身に付けることができる。 3 実習を通して自分の課題を見だし、解決策を考えたり、それに向けた具体的な取り組みを考えたりすることができる。
<b>職業</b> 身近な職業 <b>(3)</b>	・いろいろな職業を知る。 ・様々な職種に触れ、就労についての知識を深める。 ・憧れの職業を探す。 ・自分の将来の生活について考えることができる。	<b>働くこと</b> 3 ・身の回りにはある職業や、先輩の就労先の仕事内容が、いろいろな職業を知ることができる。 ・興味のある職業を見つけて、仕事内容について調べ、発表することができる。 ・社会で働く人たちの生活と、今の自分の生活の違いについて主体性で考えることができる。
<b>作業</b> <b>(園芸)</b> 壁飾り作り 紙バンドの鉄断 成形 花付け 管理 梱包 10 ~ 1 <b>(30)</b>	・使用する道具や製品を丁寧に扱うことができる。 ・手順を理解し、作業を進めることができる。 ・扱う道具や種物を丁寧に扱うことができる。 ・工夫しながら製品にすることができる。 ・できあがった製品を適切に管理することができる。	<b>壁飾り作り</b> <b>花の収穫</b> <b>土台作り</b> <b>花付け</b> <b>梱包</b> 3 0 ・壁飾りの製作工程を知り、道具の扱い方や製作の方法を守りながら丁寧に製品作りを行うことができる。 ・良い製品を作るために工夫したり改善したりすることができる。 ・自ら進んで製作に取り組みだり、製品が完成する達成感を味わったりすることができる。

事前に年間指導計画の見直しをして授業案を作成していたが、実際に授業を立案、実施していくと、実施した単元自体の目標や内容、時数の見直しが必要であるものや、実施した単元以外の単元との調整が必要であるものなどが多々あることがわかった。

令和2年度に実施した、保健体育、生活単元学習の授業研究会では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点をどう取り入れるかという点の協議が中心となった。表4は、実際に授業研究会で使用した物であるが、付箋紙を使いながら、それぞれの授業において、良かった点、気になった点の他、どういった点が対話的だったか、どうしたら対話的な学びになるか、などの案を考え、共有した。それぞれの学び方についての定義や例を示しながら進めることで、実際の授業の中での具体的な案について、意見の広がりが見られた。

表4

<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの活用の仕方</li> <li>実態に応じた発表の仕方</li> <li>教材の活用の仕方 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書の文字の大きさ</li> <li>活動の所要時間</li> <li>授業の流れの示し方 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒とのやりとりが多かった</li> <li>他者の考えに触れることができる発表だった</li> <li>グループを作って意見を共有すると良い など</li> </ul>

#### 4 成果と課題

本研究では、「社会で生きる力」を育てることを目指した年間指導計画の作成と授業改善という目標に沿って研究を進めてきた。それぞれの成果については、各項目のまとめに示した通りであるが、研究全体を通しての成果として以下の二つを挙げる。

一つは令和4年からの新学習指導要領の適用に向けて、ほぼ全ての年間指導計画の見直しを終えることができたことである。年間指導計画には、学習指導要領にも使われている「課題を設定」「解決策を考え」「実践を評価・改善」などの文言が目標として入るようになり、「自らの在り方や生き方を考えさせる」という点を踏まえることができたと考える。もう一つは、年間指導計画や授業案を作成するにあたって、高等部のそれぞれの教員が新学習指導要領に触れ、その内容の確認をすることができたことである。年間指導計画の作成から実施、授業を通しての評価、改善までのそれぞれの段階において、必要となる視点の確認をすることができた。また日頃の学習においては課程や学年単位で行うことが多いが、課程や学年を超えて職員が話し合う時間を設けることで、新たな気づきが多くあったということも成果として挙げたい。

今後の課題としては、今回作成した年間指導計画の内容を適切に実施しながら、今後、社会で求められる社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育成する指導の在り方を考えていくことが挙げられる。本研究で行った年間指導計画の見直し、授業改善を継続的に行える体制の構築を行いながら、自立と社会参加に向けた指導の充実を目指して取り組んでいきたい。

#### 引用・参考文献、資料

- ・特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月 告示
- ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）平成31年2月
- ・特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）平成31年2月
- ・特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）平成31年2月
- ・平成31年版 学習指導要領改訂のポイント 高等部・高等学校特別支援教育  
宮崎英憲監修／横倉久編著 明治図書出版
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校編）
- ・リーフレット 「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）（高等部編）」  
国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東洋館出版社